

梅鶯仏教壮年

第17号
2004年
12月5日

梅鶯仏教壮年会

『報恩講』

12月19日(日)
6時より

*日程が当初予定から変更となりましたのでご注意ください。

○お勤め

- ・ 真宗宗歌
- ・ 正信偈(行譜)
- ・ 恩徳讃

○法話

○お齋(懇親会)

お齋(食事会)は、お汁と豆腐田楽とちよつぷりのお酒という慎ましやかなものです。実費徴収いたしますので、どなたでもお気軽にご参加下さい。

「報恩講」は浄土真宗の私たちにとって最も大切な年中行事です。

親鸞さまとともに、この私が必ず真実の世界・お浄土に生まれさせていたたくことの身の幸せを悦び合い、「仏法広まれ、世の中安穩なれ」と願い合うのが報恩講です。

今年も悲しい出来事がいろいろとありました。

私たち梅鶯仏教会員が、様々なことを語り合い、親睦を深め合うことは大変意義のあることだと思えます。どうかみなさまの参加をお待ちしています。

準備の都合がありますので、参加・不参加を事前に役員様までお知らせ願います。

一人いてしも 喜びなば

二人と思え 二人にして

喜ぶおりは 三人なるぞ

その一人こそ 親鸞なれ

報恩講の歌より

まよいの目には見えませんが、仏さまは常に私を照らします。親鸞様ともいつも一緒です。

題材法話

○今夏の思い出

今年の夏は、オリンピックにおける日本選手団の活躍や、大リーグでの松井・イチローの活躍と、本来ならばスポーツ好きの私にとっては楽しい思い出が多かったはずなのに、振り返る心は必ずしもそうではありません。

それは、例年にない台風などの自然災害や、世界での相次ぐ戦禍の知らせによるところが大きいのですが、私の身近ではもう一つの寂しい夏の始まりがありました。

共に仕事をさせていただいていた龍谷大学の常務理事北畠義信氏が、突然亡くなられたのは8月4日でした。

前日まで元気だった彼が、山形のお勤め坊に帰り、ご門徒の法事をお勤めしている最中に倒れ、ほとんど即死の状態だったそうです。

44歳で180数センチの立派な体躯を持つ、きさくな彼との全く突然の娑婆での別れでした。



○悲嘆の中にあつて

義信氏の御尊父は龍谷大學元学長の北畠典生先生であります。悲しみの内に駆けつけた山形でのお通夜における北畠先生のご挨拶は、感慨深く、とても味わいの深いお話をありました。記憶のままにご紹介します。

「親の欲目もあり、息子には将来を大いに期待をしておりました。その44才の元気な息子に先立たれるなどとは心底思つてもみませんでした。

まだ頭が混乱状態なのであります。が、よくよく考えれば、今まで私は、あてのゆるものが無常迅速（全く）であり、老少不定（いのちを終えることは、必ずしも老いが若きよりも早いとは限らない）であるといふ、仏教が示す根本の教えを皆さんに幾度となくお話をして参りま

ただ何にこの頭の中



たかに、ようよう今気が付かさせていただいておりま

す。してみれば、このように私に息子が命がけで無常迅速の理（ことわり）を教えたくれたのだなと領解させていただいております。棺昨夜も眠れぬままに、棺の中の息子の顔を見ながらこんなことを考えておりまして、思わず息子に対し「有難い」「申し訳ない」の気持ちでいつぱいとなりました。涙流れるままに、ただただ、お念仏を申させたいだいたことでありました。』

といった主旨のご挨拶でありました。

まさに「先立つ我が子は善知識さま（私をお念仏の世界に導く方）なり」のお味わいでありました。

○無碍（むげ）の一道

前途洋々たる後継住職の我が子を、突

然に亡くされた北畠



先生の悲しみはいかばかりのものでありぬかしうか。見るに忍びぬ打ちひしがれたご様子でありました。拭えない悲しみであります。受け入れざるを得ないのが私たち人間の世界です。悲しみの中にあつても、この願いのちを思い、そして願ひ続けることに気づかせていただけ悲しいままに悲しみを逆縁としていよいよ阿弥陀さまのご本願が確かなものと領解され、愛しい我が子とも「俱会一処」と必ず再会させていたたくことができる世界を持つことができるのです。

それがお念仏に生かされて生きる「無碍の一道（お念仏の世界はなにによつてもさまたげられることのない）」の世界でありました。う。

北畠先生のお話をしみてありました。

門信徒宅での住職法話より

報恩講

「お番」の晩は雪のころ、雪はなくても暗のころ。くらい夜みちを、お寺につけば、とても大きな蠟燭と、とても大きな火鉢で、明るい、明るい、あたたかい。

大人はしつとりお話で、子供は騒いじや叱られる。だけど、明るいにぎやかで友だちやみんなよつていて、なにかしないじゃ、いられない。

更けてお家へかえつても、なにかうれしい、ねられない。

「お番」の晩は夜なかでもからころ足駄の音がする。

金子みすゞ

「お番」とは報恩講の大遠夜のことで。金込みすゞさんの子供の頃の報恩講の思い出のうたですが、時と場所を超えて、なにか懐かしく感じませんか？